

課題をもって学習にとりくむ生徒の育成
～SDGsを軸にした学習を通して～

- 1 研究要項
- 2 研究の手だて
- 3 実践計画
- 4 実践の様子
- 5 実践の成果と課題
- 6 活動のまとめ

第3分科会
社会科教育
B 現状認識

野口 哲平 (名古屋・志段味中)

研究の概要報告

1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

71次を向かえた教育研究愛知集会では、各参加地区より19本のレポートが提出され、質疑応答や討議が活発に行われた。レポートでは仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざした実践や地域の課題解決をめざした実践などが報告された。

地理学習では、地域ごとに異なる課題を自分事としてとらえ、他者とのかかわりを通して追究する実践が報告された。

歴史学習では、歴史的事象を的確にとらえ、自他の考えを比較したり練り直したりすることで、各時代の特色を明らかにする実践が報告された。

公民学習では、身近な社会問題を取り上げ、対話を重視しながら多面的・多角的な視点から考えさせる実践が報告された。

どの分野においてもゲストティーチャーを効果的に活用したりさまざまな思考ツールを活用したりすることで、社会への参画意識や多面的・多角的に考える力をのばす実践が報告された。

2 今次教育研究集会で論じられた主な課題

これまでの成果と課題をもとに、主権者として学ぶ意欲を高める学習活動のあり方について話し合われた。参加者からは、結論の出ていない身近で切実な問題を素材として教材化することや、自分事としてとらえ社会に主体的にかかわりを実感できるようにする課題設定の工夫、学習や発表の形式の工夫について意見交換された。また、社会参画の意欲を高める学習活動については、当事者意識や切実感をもつことができる素材を活用し、価値判断をさせるための話し合いやゲストティーチャーなどおとなのかかわりを通して、社会参画をする場面を設定する活動の有効さについて話し合われた。その後、地域素材から社会に対する見方・考え方をどう育てるかについても意見交換された。参加者からは自分たちの地域だけでなく、他地域との比較を通して理解を深めることや地域にゆかりのある先人を取り上げ、社会的事象を的確にとらえる工夫について話し合われた。また、対話的な学習活動を通して社会に対する見方・考え方についての議論では、地元の声、他地域の声、先人の声などのように多面的・多角的に傾聴し、横断的・縦断的に調べることの重要性が確認された。

活発な議論により、多くの指導法について吟味することができた。今後もこれらの実践を重ねることで、子どもが多くのかかわりながら社会を見つめ、仲間との学びあいの中で育つ意思決定の態度や学習意欲の向上を、社会への参画意識の高まりにつなげたい。

これからも、子どもたちによりよい社会の創造について考えさせるための手だての工夫をしたり社会に対する見方・考え方を働かせたりしながら、社会参画の意欲を高められる実践を行うよう期待をする。(船尾日出志・牛島康太郎)

報告書のできるまで

1 研究の具体的な経過

第69次教研の実績をふまえ、各単組社会科研究会を中心に、継続的・実践的研究が行われ、各単組で研究内容が発表・検討された。そして、それぞれの単組の研究報告が10月16日、愛知県産業労働センターで開催された県集會に集結し、報告・検討された。

2 研究組織とその参加者

第71次教育研究愛知県集會 社会科分科会 正会員・役員等

助言者	真島 聖子 (愛知教育大学)	垣谷 英秋 (豊田・高岡中)
	船尾日出志 (愛知教育大学)	牛島康太郎 (名古屋・宮中)
司会者	宮下 渉 (瀬戸・にじの丘小)	甲斐 俊晃 (名古屋・中小田井小)
	松田 拓也 (豊橋・東陽中学校)	酒井 孝康 (岡崎・城南小)

教育課程研究委員

部長	前野 協太 (名古屋・八幡小)	
副部長	駒野 雅彦 (豊田・前林中)	牧原 晃 (名古屋・はとり中)
委員	早瀬 友浩 (尾張旭・西中)	伊藤 宏将 (海部・弥富北中)
	池部 弘樹 (碧南・東中)	加藤 遊 (西春・西春小)
	古居 成幸 (西尾・ハツ面小)	

1 研究要項

(1) 志段味中学校生徒の実態

- ① 授業に対する意欲は非常に高いが、社会科に対する意欲はほどほどである。そのため教科書だけでなく、発問や資料や動画を織り交ぜて、授業を展開する必要がある。
- ② 自力で内容をまとめ、的を絞った意見を述べるのが苦手である生徒が多いため、ワークシートを活用して、苦手を克服できる環境を整えることが必要である。

(2) 多様化に向かう社会に対する、学ぶ楽しさを大切にする。

- ① 昨今、自分の意見の正しさを前面に押し出し、相手を『論破する』ことに重きを置く風潮が見られている。多様化する社会の中で自分をいかし、他者とともに切磋琢磨できる授業をめざしたい。
- ② 人から言われて「気付き」からその中から自分なりに「築き」に繋げることで、学ぶ楽しさを実感させ、学ぶ事で自分の成長を実感させたい。

(3) 自分を知り、他者との交流を通じて、自分を高めさせる。

- ① 教科書や資料から現在の社会を知る活動を取り入れ、自分は何ができるのか、自分たちには何が必要なのかを考え、課題にとりくむことができる生徒を育成したい。
- ② 自分の意見を最初に考え、立場を明確にする。その後には話し合い活動を行うことで、他者との同一性や差異に気付かせ、生徒を成長させるきっかけをつくりたい。

2 研究の手だて

【手だて1】

軸となるSDGsとは、国連が掲げた2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標で、17のゴール169のターゲットから構成されている。資料やSDGs一覧表を手元に置かせて、この内容を生徒に説明する。

次に国連や国、企業などが行っている事例を紹介して、その事例について考えさせる。そして、身近で行われていることを自分自身で探し出し、まとめさせた後、自分の考えを他者との交流を通じて発展させ、全体に対して発表させる。



※ラミネート加工して配布した資

【手だて2】

教科書を参考に、SDGsを軸として各単元の課題を考え、対応するSDGsの17のゴールに当てはめ、対策や課題解決案を考えさせる。

授業はワークシートに沿って行う。まず、学級・班活動を通じて、どんな課題があるか見付け出させる。次に、出てきた課題の中から、自分が関心のある内容を選び出させ、SDGsと結び付けて、生徒自身が考えた課題解決案を明確にまとめさせる。最後に、班活動を行い、他の生徒の意見から別の視点に気付かせる。最後に自分の考え

と他者の考えを結び付けて、よりよい課題解決案をまとめさせる。

3 実践計画

(1) 実践単元 地理的分野 「アフリカの人々の暮らしとその変化」

(2) 単元計画 SDGsを軸として、気候・歴史・難民・農業・都市化・鉱業などの課題について考えさせる。その後、自分の興味がある内容を選び、課題と課題解決案をまとめ、班活動で意見交流をはかる。班活動で気付いたことをまとめ、自分の意見をよりよい内容に仕上げさせる。

(3) 指導計画（6時間完了）

	時	学習内容	指導上の留意点
導入	1	○ SDGsの基本的な学習を行う。ワークシートを使い、自分と他者の価値観を比べる。	○ SDGs一覧を活用して、自分の意見を言いやすい状況をつくる
捉える	2 3	○ アフリカの単元②地勢～④鉱業と「地域から世界を考えよう」を班ごとに振り分け、調査させる。 ○ 調査後、各内容についてどんな課題があるか各自でまとめ、付箋に意見を書き込む。 ○ A3の班活動用の方眼紙を使って、班の意見をまとめる。その後、課題をグループ分けして、SDGsと関連付けをさせ、課題を明確にする。	○ 教科書をまとめたプレゼン資料を使って、内容を大観させる。 ○ SDGsの資料を手元にもたせて、活動させる。 ○ 現状・影響・対策など、自分が考えたことを端的に記述させる。
学習課題：SDGsを軸として、各課題の解決法を提案しよ			
学ぶ	4	○ 前時、自分が選んだSDGsをもとに、班活動を行う。自分以外の人意見を聞き出し、他者の案と自分の意見をつなげて考える。 ○ 改めてアフリカの各内容の課題解決案を考え、自分の考え以外を取り入れた内容をまとめる。	○ SDGsに即した内容になるよう、机間指導をしつつ助言する。 ○ ほかの人の解決案と自分の意見につなげ、まとめたり、発展させたりできるよう助言する。
深める	5 6	○ 班でまとめた内容を元に、他の班はどうまとめたかを調査しに行く。そこで聞いたことをまとめて、自分の班で改めて発表する。 ○ 自分の考えた、新しい課題解決案を2分程度の時間で端的に発表する。その際、誰の意見を採用して、よりよい課題解決案をつくったかを説明する。	○ メモ用紙を渡し、他班の発表を自分なりにまとめさせる。 ○ 時間を守るよう、発表原稿を事前に用意し、記述させる。

(4) 評価計画

- A 自分の意見を述べることができている。また、自分の考えに他者の課題解決案を三つ以上つなげて考え、改善した上、新たな解決案を発表することができる。
- B 自分の意見をまとめることができている。また、他者の課題解決案を二つ以上つなげて考え、自分の案を改善することができる。
- C 自分の意見をまとめることができている。

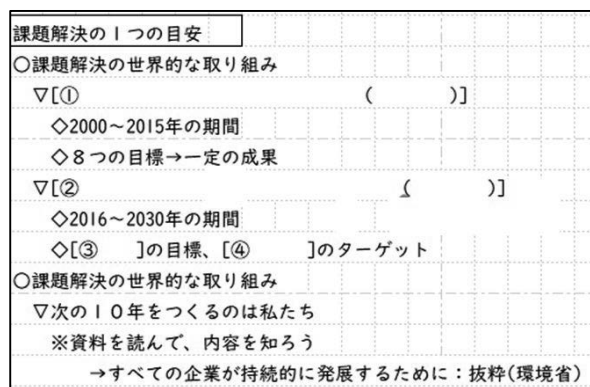
4 実践の様子

【① 導入】

プレゼンテーションソフトによる説明（資料1）とワークシート（資料2）を使い、自分と他者の価値観と比べた。ワークシートを活用することで、書く作業を軽減し、話し合い活動に時間が割けるようにした。また、SDGsを知らない生徒が9割近くいたので、JICAや名古屋市教育委員会資料を配付して、説明しながら知識の定着を図った。



【資料1 プレゼンテーション画面】



【資料2 ワークシート1】

プレゼンテーションの照射の仕方は、黒板中央に貼り付けた。生徒の視線を中央に集めると同時に、授業中に追加したい情報や生徒のよい意見を左右に書き加えることで、中央は学ぶべきこと、左右は授業ならではの学びに向かうよい意見や考え方と区別して思考を整理できるようにした。



【資料3 SDGsの説明】

次に、調査や人と話し合う前に、自分の意見や考え方をもちかためるために、自分はどのSDGsに興味があるか、優先順位を決めさせた。

生徒からは、「資料があるので、自分はどの考えに近いのかを見ればよいから分かりやすかった」「目標が始めにわかったので、今回の学習では何を中心に（自分の意見を）考えていけばよいか分かりやすかった。」という意見が多く聞かれた。また、資料4を書かせるときは、優先の先・後を最初に書かせて、余力がある生徒は全部埋めるように指示することで、時間を調整した。（次ページ 資料4）

☆2 わたしの優先、あなたの優先（17のパートナーシップは除く）

○わたしの優先			
先	理由		
3			
16	10		
13	14	15	
1	11	17	2
9	4	6	
7	8		
12	理由後		

← 自分で横見を書く 5... みんなが住めるから一本.

16... 平和で生きるのは世界のため、人のためだから

10... 16と比しているが人の平等がいっぱいだから

13、14、15... 地球のためになり、それは人が自然に

1、11、17... 人が地球で生きやすくなるために

9、4... 子どもの人生のためになる

6... すべての人のためにも、地球のためにもなる

7、8... 7がよければ8もよくなるから

☆2 わたしの優先、あなたの優先（17のパートナーシップは除く）

○わたしの優先		○あなたの優先	
先	理由	先	理由
		10	
		16	
理由後		理由後	

【資料4 左：考える事が得意な生徒 右：考える事が苦手な生徒】

【② とらえる】

自分の意見がまとまったところで、班を分け、単元の①～④の各内容についてどんな課題があるか話し合わせた。（ジグソー学習）班ごとに各単元の内容を分担し、その課題について、SDGsを活用させて考えさせた。活動を通して、自分以外の人の意見を聞き出し、他者の案と自分の意見をつなげて、課題を多面的に考えさせた。（資料5）



【資料5 意見交換】

生徒たちもSDGsを軸に考える事ができていたので、自分の意見をもつことが苦手な生徒も、「わたしは、4が大事だと思う…理由は、勉強がやっぱり大事だから」と、端的にでも自分の考えをもち、人に伝えることができていた。

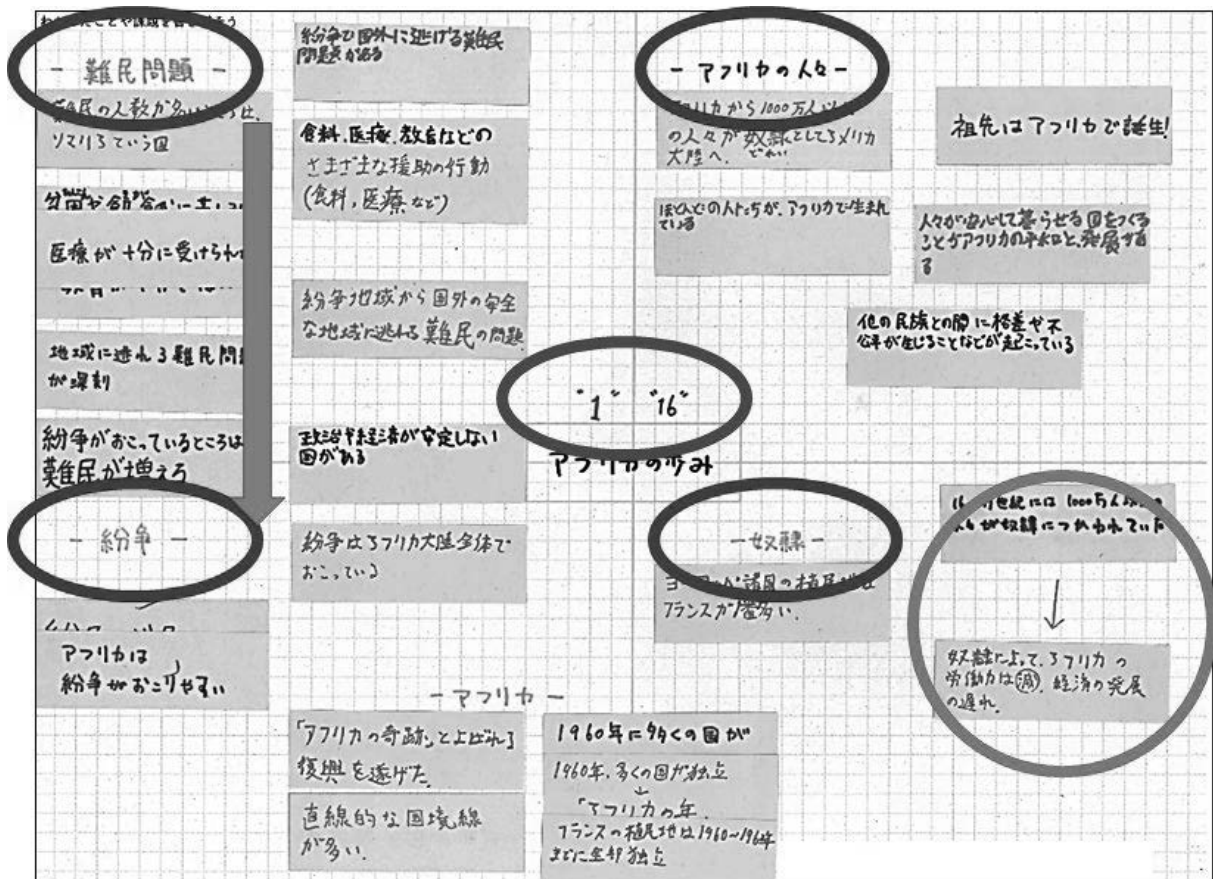
【③ 学ぶ】（資料6は次ページ参照）

自分が大事だと思った教科書の内容や課題を付箋に書き出し、A3の用紙に貼り出させた。一通り出そろったら、グループ分け（赤丸）をしてタイトルを付けさせた。その中から、自分たちが解決したい課題に対してSDGsを二つ（青丸）選ばせた。

A3用紙の使い方は、ペンの色は、班員ごとに分ける。A3用紙の右下に、色分けした班員の名前を書いてあるので、誰が何を書いたかが区分できるようになっている。今回、付箋の色に、理由はもたせていない。状況によっては、赤は課題・青は解決策という使い方でもできる。

教科書を分割して読み合い、早く授業にとりくむことができた。班員と協力しないと課題を見付けることができないため、話し合う機会が増え活気のある活動となった。それぞれで探した課題をA3でグループ分けして、タイトルを付け、整理する活動が積極的に行われる様子が見られた。

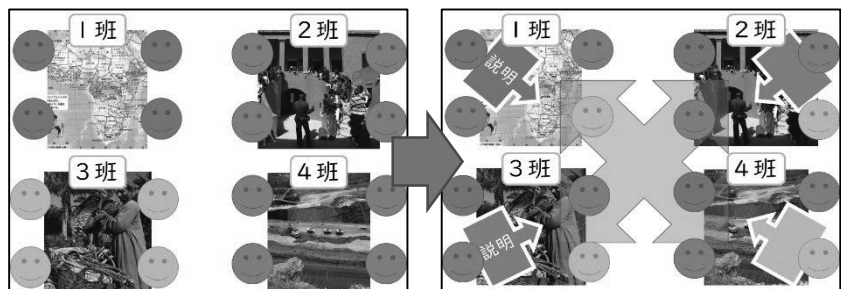
資料6の左上の難民問題（緑下矢印）では、自分と他者の付箋を組み合わせることで、難民問題が引き起こす負の連鎖に気付くことができました。右下の生徒（緑丸）は、グループで出た「1000万人が奴隷に(なり)つかわれていった」という意見から発展させて、「(その当時のアフリカのための)労働力は減(り)、(現在の)経済の発展の遅(れ)につながった」と考える事ができていた。



【資料6 A3用紙を用いた、課題整理活動】

【④ 深める】

最初に、自分の班で話がまとまったら、班の代表者以外の生徒は調査員として、他の班のまとめた内容を調査しに行かせた。(資料7)



【資料7 班活動の動き】

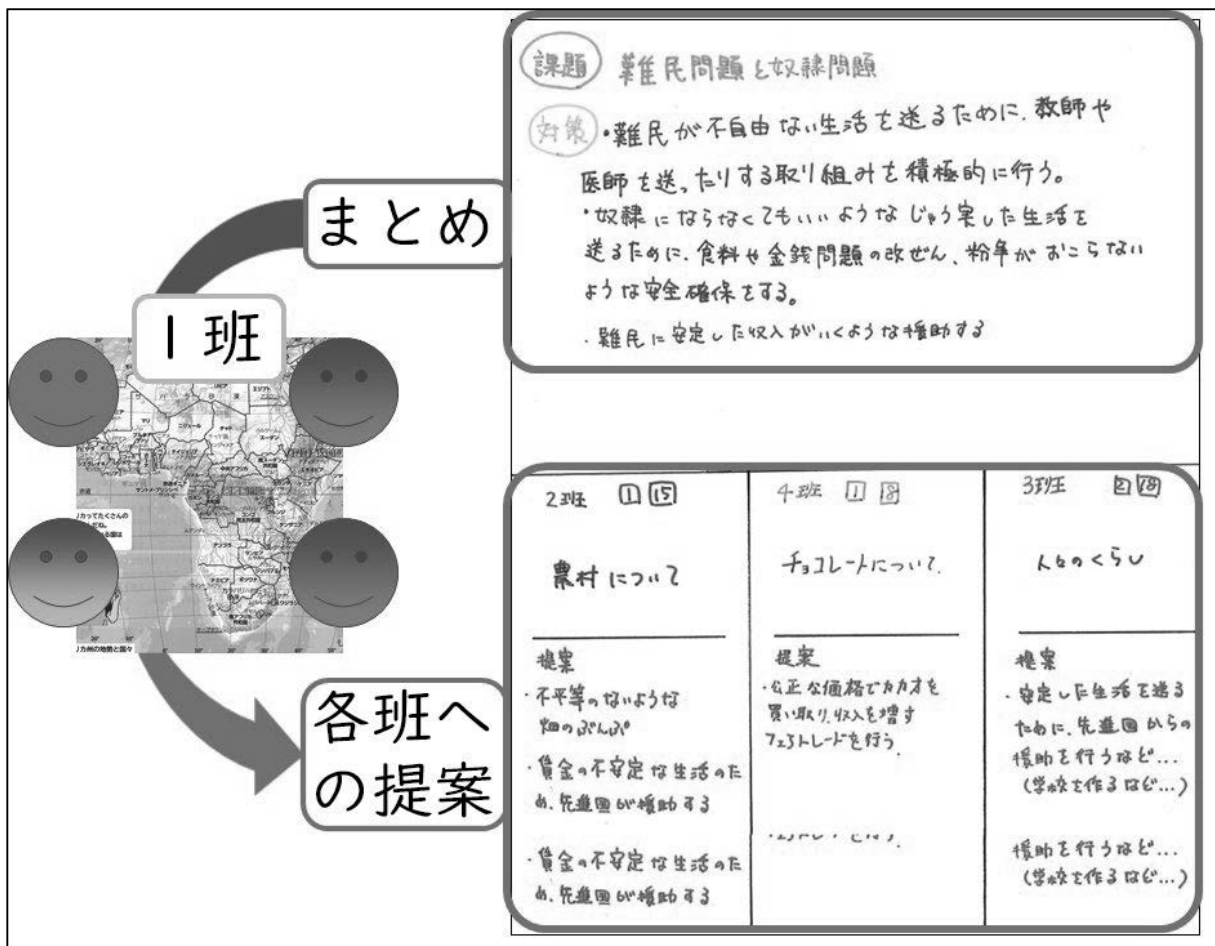
班の代表者は、他の班から来た調査員に対して、自分たちが話し合った内容の要点をまとめて、説明できた。

次に、調査した結果を元の班に戻って報告して、改めて自分たちの課題について考えた。他の班の課題を知ることによって、課題に対する対策をさまざまな視点で考えることができていた。(資料8)

自分たちの課題と対策を考えた後、自分たちの問題が解決した場合、他の班に対して、どのような課題解決法を提案ができるかを考えた。SDGsを軸に考えることで、お互いの課題がつながっていることに気付き、関連付けてまとめることができていた。(資料9は次ページ参照)



【資料8 活動の様子】



【資料9 課題と対策案・提案】

5 実践の成果と課題

- 社会の課題を自ら探し、考えることを難しいと感じる生徒が多い中、資料9のように、SDGsを軸にすることで、持続可能な到着点を17観点に絞ることができた。また近年、資料が豊富に出そろってきているので、関係資料が集めやすいこともよい。
- 個人で調べ、班で情報共有をはかる方法で、教科書で気になったことを付箋に書き込み貼り付けた。発表が苦手な生徒も自信をもって発表できる機会を設けることができた。
- SDGsの説明自体は1時間でできるが、生徒からの質問を含めたり、話し合い活動したりすることを考慮すると2～3時間ほど確保した方がよい。
- 知識だけではなく、現在どのような活動が行われているかという具体例を示すとより効果が出ると考えられる。

6 活動のまとめ

SDGsと社会科の相関性がよいので、授業を行っているとき、適切なタイミングで教科書とSDGsの資料を見比べることができる教材を作りたいと考えている。下敷きタイプのSDGsの一覧表や冊子やパンフレットなどの教材を生徒分用意できるようになると、円滑に授業ができるようになるので、準備していきたい。

今回、地理とSDGsを組み合わせたが、歴史についても関連づけて行うことができるのかを実践し、各単元での課題追究に結び付ける観点を考えていけるような授業づくりをしていきたい。